



本願寺派スカウト指導者会発 41 号
2024(令和6)年 12 月 23 日

日本ボーイスカウト
都道府県連盟事務局 様

本願寺派スカウト指導者会
理事長 土山 和 雅



「第 15 回仏教章修得のための研修会」開催について (ご案内)

謹 啓

平素より当指導者会の活動にご理解並びにご協力を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、このたび本願寺派スカウト指導者会では、仏教章をこれから修得したいというスカウトを対象に「第 15 回仏教章修得のための研修会」を別紙の通り開催いたします。

本願寺派の門信徒で当会へ登録されていないスカウトや、仏教に関心のあるスカウトにおかれましても是非ご参加いただきたいとの願いから、各県連盟へもご案内させていただきました。

つきましては、誠に恐れ入りますが、ぜひ貴連盟のスカウトにお呼びかけくださいますよう、ご協力のほどお願い申しあげます。

合 掌

紀

1. 送付内容 ・ 第 15 回仏教章修得のための研修会 開催要項・日程表
・ 参加願書・推薦書

以 上

《お問い合わせ先》

〒600-8501 京都府下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派 宗務所内
本願寺派スカウト指導者会

TEL: 075-371-5181 Fax: 075-351-1211

メールアドレス scout@hongwanji.or.jp

「第15回仏教章修得のための研修会」開催要項

1. テーマ めざせ！仏教章！
2. 趣 旨 本願寺派スカウト指導者会のスローガン「仏教章を胸に」を体し、研修会を通じ仏教章修得に必要な知識・技能などを身につけると共に、真宗スカウトとしての自覚を促す。また、この機に友の輪を広げ、お互いの生き方を確かめ合い「ちかいとおきて」「やくそくとおきて」の理解と実践をより深め、心身共に豊かな聞法者を育成することを目的とする。
3. 期 日 2025（令和7）年3月25日（火）～27日（木）※2泊3日・・・日程：別紙参照
4. 会 場 【研修】本願寺伝道院
【宿泊】学林寮
〒600-8346 京都府京都市下京区玉本町 196 Tel:075-371-5181(代)
5. 参加資格 本願寺派仏教章修得を目指す**中学2年生以上** 24歳以下（2025年3月25日時点）のスカウト
※ボーイスカウト隊所属のスカウトにおいては、1級以上に限る
尚、本研修会は得度済みの方については対象外です。得度済みの方で仏教章修得を希望される方は事務局までご一報ください
6. 事前提出物 (1)「釈尊の伝記」をレポートにまとめる（800字程度）、まとめた感想（400字程度）
(2)「親鸞聖人の伝記」をレポートにまとめる（800字程度）、まとめた感想（400字程度）
※参考書籍：「浄土真宗本願寺派スカウトハンドブック」※amazonプリントオンデマンドで購入できます
※レポート・感想は、3月17日（月）までにスカウト指導者会宛に、郵送またはメールにて提出のこと
7. 募集人数 30名
8. 参加費 10,000円
9. 帰敬式^{ききょうしき}冥加^{みやが} 受式者のみ 10,000円（成人 ※18歳以上） 5,000円（未成年）
※帰敬式は、阿弥陀^{あみだ}さま・宗祖親鸞^{しゅうそしんらん}聖人^{しょうにん}の御前^{ごぜん}で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、今後力強く生きていくことを誓う生涯^{しやうがい}ただ一度の大切な儀式で、「おかみそり」ともいいます。式は原則として本山で門主によって執り行われ、三帰依文^{さんきえもん}を唱えて、おかみそりを受け、法名^{ほうみょう}をいただきます。
※法名を内願される場合は、QRコードのリンク先（本願寺HP）から受式願（内願用）をダウンロードし、記入・押印のうえ所属寺院住職から当会宛にお送りください。※1月24日（金・必着。別途1万円以上の懇志をご進納ください）
10. 申込方法 参加願書に4cm×3cmの上半身写真を添付のうえ、所定の事項を明記し、下記の書類を添え、現金書留にてお申込みください。
【提出書類】① 参加願書・推薦書 ②「参加費」及び「帰敬式冥加（受式者のみ）」



11. 申 込 ・ 本願寺派スカウト指導者会 宛

問い合わせ先 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル



浄土真宗本願寺派宗務所内 寺院活動支援部(組織教化担当)

TEL 075-371-5181 (代表) FAX 075-351-1211 mail : scout@hongwanji.or.jp

12. 締 切 日 2025 (令和7) 年2月24日 (月) 必着

※締切日前であっても、定員になり次第受付を締め切らせていただきます。

※参加者が過半数に満たない場合は、中止となる場合があります。

13. 許可通知 締切後、書類審査のうえ参加者を選定し、各自に「参加許可証」を送付いたします。

14. 持 参 品 念珠、式章 (帰敬式受式済者)、参加許可証 (後日送付します)、健康状況書、スカウト聖典 (本願寺派スカウト指導者会発行)、仏教章修得に向けたテキスト(本願寺出版社発行)、浄土真宗本願寺派スカウトハンドブック、ボーイスカウト歌集またはガールスカウト歌集 (日本連盟発行のもの)、筆記用具、ソーイングセット、保険証 (マイナンバーカード)、活動できる服装・靴、上履き、防寒具、コップ、寝巻き、雨具、入浴等その他研修に必要なもの

【本願寺派関係書籍 購入方法】

スカウト聖典 (880 円・税込) : 本願寺スカウト指導者会で販売 (研修会受付でも販売)

浄土真宗本願寺派スカウトハンドブック (990 円・税込) : amazon プリントオンデマンドで販売

仏教章修得に向けたテキスト (660 円・税込) : 本願寺出版社で販売

※ゲーム機、ipod 等の音楽プレーヤー、お菓子、雑誌類は持込み禁止です

※研修会中は、スマートフォン・携帯電話の使用ができません。(受付時にお預かりさせていただきます)

15. 服 装 ボーイスカウトは制服・正帽または副帽、ガールスカウトはガールスカウトユニフォーム

※アクセサリー(ピアス、指輪等)は着用不可。つけてこられた場合は、外していただきます

※記章の着用、身だしなみにつきましても、所属指導者の充分なる事前の指導をお願いします

留意事項

◎本研修会のみで仏教章は修得できません。研修会終了後、教導者(浄土真宗本願寺派僧侶)の指導のもと「家庭修行の実践」「地域ならびに浄土真宗本願寺派寺院への奉仕」が必要となります。

浄土真宗本願寺派以外の宗旨で本研修会を受講希望の方は、本研修会が浄土真宗本願寺派の門徒を育成したいとの願いのもと開催されますことを、ご理解のうえご参加ください。

◎体調不良等の理由により研修途中で参加中止となったときは、保護者に迎えに来ていただく場合があります。

◎前日までに連絡がなく当日欠席された場合、また研修途中で参加中止となった場合は、参加費の返金はいりません。

以 上

日 程 表

時間	3月25日(火)		3月26日(水)		3月27日(木)
5:30			起床・洗面・寝具整頓		起床・洗面・寝具整頓
6:00					
6:30			晨朝参拝 写真撮影	本願寺	晨朝参拝
7:00					本願寺
7:30			朝礼	本願寺	帰敬式 書院拝観 朝礼
8:00			朝食	学林寮	
8:30					朝食 清掃
9:00					
9:30			家庭勤行② 光吉恒亮		自主学习 (STA)
10:00					個人面接
10:30			休憩		アンケート
11:00			親鸞聖人の伝記 高倉健司		仏教章申請方法
11:30	集合		真宗教義 高倉健司		昼食
12:00					解隊式 閉会式
12:30	受付・点検		昼食		
13:00	開会式 結隊式				解散
13:30	オリエンテーション		釈尊の伝記 河野教真	伝道院	
14:00	班会議		仏教の教え 河野教真		
14:30	仏教章の意義 梁瀬正文		休憩		
15:00	休憩		仏教讃歌 音楽礼拝 土山和雅理事長		
15:30	スカウトOWN 私たちのちかい 梁瀬正文	伝道院	休憩		
16:00	休憩				
16:30	宗派について 仏教行事について 光吉恒亮		自主学习 (STA)		
17:00					
17:30	休憩		交流会		
18:00	家庭勤行① 荘厳・作法 光吉恒亮		休憩		
18:30	夕食		夕食		
19:00		学林寮		学林寮	
19:30	入浴		入浴		
20:00	移動		移動		
20:30	自主学习 (STA)		自主学习 (STA)		
21:00	班長会議	伝道院	班長会議	伝道院	
21:30	班集会		班集会		
21:30	就寝勤行		就寝勤行		
22:00	消灯	学林寮	消灯	学林寮	

食事のことば

本研修会において、食事の際に、浄土真宗本願寺派「食事のことば」を唱和いただきます。研修会当日までに覚えてきてください。

[食前のことば]

(合掌)

【代表】^{おお}多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。

【みんな】^{あか}深くご^{おん}恩を^{よろこ}喜び、ありがたくいただきます。

[食後のことば]

(合掌)

【代表】^{とうと}尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます^{ごおんほうしゃ}御恩報謝につとめます。

【みんな】おかげで、ごちそうさまでした。

[食事のことば] の意義

「食事のことば」をつねに自ら声に出すことによって、食事はただ漫然と食物を摂り、栄養を補給するものではなく、目の前の食事には、そこまでに至る大きなおかげとめぐみがあることに気がきます。そのことによって、ものの本当の価値を見出だす人間性が養われていくことになるでしょう。